

天使病院を受診された患者のみな様へ

本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。

研究課題名	メチシリン耐性コアグララーゼ陰性ブドウ球菌における血流感染症の予後にバンコマイシン感受性が与える影響に関する調査研究
研究の対象	2013年1月1日から2019年10月30日までの期間で当院にて血液培養からMRCNSが検出された患者
研究目的・方法	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> : MRSA) とは、メチシリンに対する薬剤耐性を獲得した黄色ブドウ球菌の意味であり、メチシリンを初めとする多くの抗生物質に耐性を示す多剤耐性菌である。代表的な抗MRSA薬はバンコマイシン (VCM) であるが、MRSA感染症において、VCM低感受性株の報告が散見しており、TDMガイドライン2016でもVCMの最小発育阻止濃度 (minimum inhibitory concentration: MIC) が $2 \mu\text{g/mL}$ 以上の場合には菌血症治療の適応にならないと記載されている ¹⁾ 。一方、コアグララーゼを産生せず、MRSAよりも病原性が弱いと考えられてきたメチシリン耐性コアグララーゼ陰性ブドウ球菌 (methicillin-resistant coagulase-negative <i>Staphylococcus</i> : MRCNS) の血流感染症においても第一選択薬はVCMとなるが、MRCNSに対するVCMのMIC値が $2 \mu\text{g/mL}$ 以上の場合、治療効果に与える影響についての報告は少ない ²⁾ 。そこで今回、MRCNSにおける血流感染症に対するVCMのMIC値別の抗菌薬治療効果について患者の臨床データを解析した検証を行う。
研究期間	承認日から2021年3月31日
研究に用いる試料・情報の種類	①バンコマイシン投与量と投与期間、バンコマイシントラフ血中濃度 ②対象患者の患者背景と生理学的・血液学的検査値
外部への試料・情報の提供	対象者の個人情報を厳重に保護し、取り扱いには十分に留意する。カルテから得られた情報、研究データは、パスワード管理し、匿名化 (個人を特定できる情報を消去し、解析用の番号を付ける) の状態で解析に用いる。また、匿名化に用いた対応表、研究データは、研究終了後、天使病院において施錠し10年間保存する。参加者の個人情報はこの研究のためにのみ使用する。
外部からの試料・情報の提供	なし
研究組織	研究責任者 薬剤科 伊藤 拓 共同研究者 薬剤科 神垣 輝美、相馬 まゆ子、佐々木 洋一 北海道科学大学 今田 愛也
問合せ先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先	〒065-8611 札幌市東区北12条東3丁目1-1 社会医療法人 母恋 天使病院 薬剤部 TEL: 011-711-0101 FAX: 011-751-1708